

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/31/2018

- 参加プログラム: 香港大学 Learn, Live and Intern in China (LLIC)プログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-LLIC.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 6/17/2018 ~ 8/18/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
履修すべき単位もなく、専門の定まっていない前期課程中であったから。
■参加を決めるまでの経緯:
1月くらいにプログラムの存在を知り、自分に適していると思われたので参加することを決意しました。

プログラムについて

■概要:
最初の1週間は香港大学で中国についての講義を受けました。プログラムメンバー23人だけが参加する講義で、わりと面白かったです。メインはそのあとの8週間の上海でのインターンシップで、私は他の5人のメンバーと共にレノボの上海工場でインターンすることになりました。期間中平日はインターン先に出勤し、簡単な仕事と文化発表と自由な時間を楽しみました。施設の見学なども多く経験させてもらいました。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
スポーツ、文化活動、インターンシップ
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
同僚に連れられてダンスレッスンに参加しました。同僚につられて地域の子供の集まりに参加しました。
■週末の過ごし方:
上海の街を回ったり、他の町に旅行に行ったり、ホテルで休んだりしました。

派遣先大学の環境について

■設備:
インターン先のレノボには食堂もあり、卓球台もありました。
■サポート体制:
同僚は優しかったのでなにかとサポートしてくれました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮、ホテル
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
宿泊先は全て大学側が用意してくれました。香港大学での宿泊先はキャンパスから1駅ほどにある学生寮の個室でした。上海での滞在先は上海中心部のホテルでした。バスルームは2人で共有しましたが個室

がありました。
■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
上海はとても暑かったです、こんなのは人間の生きる世界ではないと感じました。ただ、平日はインターン先におり、外に出ることはほとんどないので生きていくことができました。インターン先はレノボの上海工場だったのですが、宿泊先との距離が遠かったのが印象的で、おかげで上海の街全体の様子を掴むことができました。通勤に用いる地下鉄は WiFi もあり快適でした。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
基本的には現金とクレジットカード(Union Pay)を利用しました。Wechat Pay や Ali Pay は登録できなかったため利用しませんでした。特に問題ありませんでした。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
特に心配することはありませんでした。
■ 自由時間に利用した交通手段：
列車
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、SIM

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
全体の流れとしては、東京大学への応募書類提出→東京大学からの合格通知→香港大学への応募書類提出→香港大学との Skype 面接試験→香港大学からの合格通知→香港大学への手続き書類提出→東京大学への手続き書類提出、でした。東京大学への応募書類提出は他のプログラムと同じ感じで、香港大学への応募書類提出は結構長めの志望理由を書いて、英文履歴書も必要でした。面接は型通りのものでした。色々手続きすることがあって煩わしかったです。
■ ビザの手続き：
中国ビザセンターに行って 90 日の M ビザを取得しました。招聘状の審査が厳しくて、私は一度書き直してもらったので結局2週間くらいかかってしまいました。渡航直前にやらずに、もっと余裕を持ってやればよかったです。
■ 医療関係の準備：
常備薬を準備して持って行きました。
■ 保険関係の準備：
大学指定の保険のみ入りました。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
教養学部の教務課に留学許可願を出した気がします。S セメスターで中国語の授業を取っていたのですが、S2 タームはこのプログラムに参加するため、先生に事情を伝え、代わりに課題を提出しました。
■ 語学関係の準備：
英語は IELTS のスコアが 6.0 しかなく不安でしたが特に対策は講じませんでした。中国語は TLP の授業で学習していたのみでした。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	40,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	15,000 円
娯楽費	50,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
The Fung Scholarships	
■受給金額(月額):	
140,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
プログラムで得られたものとして一番大きかったのは、他のインターン生との交流だと思います。色々な人と関わることで視野が広がりました。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
インターンシップにより、自分が興味のあることを仕事にしたいと考えるようになりました。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
一応英語のみでも仕事をすることはできますが、中国語のレベルが高い方がインターンの質が上がると思います。

■準備段階やプログラム参加中に役に立ったウェブサイト、出版物:

特になし